

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和 3年 4月 1日※1
(前公表年月日:令和 年 月 日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																												
大阪デザイナー専門学校	昭和52年4月1日	長尾 大樹	〒530-0003 大阪府大阪市北区堂島2-3-20 (電話) 06-6345-4676																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																												
学校法人Adachi学園	昭和42年1月12日	安達 暁子	〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台二丁目11番地 (電話) 03-5283-6288																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																											
文化・教養	デザイン専門課程	ファッションデザイン学科	平成14年度 文部科学省認定	-																											
学科の目的	ファッションが人間に及ぼす影響を理解し、専門知識・デザインスキル・機能性・デジタルスキルの習得に取り組む。時代の流行を捉えながら個々の世界観を表現することで、新たなファッションデザインを創造する。																														
認定年月日																															
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
2年	昼間	2,040時間	332時間	0	1,708時間	0	0																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
80人	24人	1人	1人	10人	11人																										
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 課題評価、試験等の評価による																											
長期休み	■夏季: 7月26日～9月5日 ■冬季: 12月20日～1月9日 ■春季: 3月20日～4月4日		卒業・進級条件	■卒業条件: 規定単位の修得及び卒業課題に合格し、且つ学費の完納者。 ■進級条件: 規定単位の修得及び進級課題に合格する。																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者へのカウンセリング等		課外活動	■課外活動の種類 学校祭、研修旅行等 ■サークル活動: 無																											
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) 株式会社マッシュホールディングス、株式会社PAL、株式会社インテグ、株式会社ブルーメイト ■就職指導内容 業界・職種研究、履歴書・作品集指導、模擬面接、模擬グループディスカッション等 ■卒業生数 17 人 ■就職希望者数 16 人 ■就職者数 16 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 94.1 % ■その他 ・進学者数: 0 人 ・うち帰国後母国にて就職 1 人		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他(民間検定等) (令和元年度卒業者に係る令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	0	0	0	0																
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																												
0	0	0	0																												
中途退学の現状	■中途退学者 4 名 平成31年4月1日時点において、在学者 36名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者 31名(令和2年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更2名(アルバイト先にて正社員雇用、マイノフット立ち上げ)、病気1名(うつ病発症による退学)、母国事情1名(母国経済悪化に伴う帰国) 転校1名(進路変更希望による転校) ■中途退学防止・中途退学支援のための取組 欠席者への日々の連絡、学校行事等への参加促進		■中退率 11 %																												
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: (有)無 ※有の場合、制度内容を記入 校友会入学時奨学金制度、校友会進級時奨学金制度、AO特待生制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・未給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: (有)無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																														
当該学科のホームページURL	http://odc.ac.jp/subject/fd/																														

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

社会が求めるニーズを敏感に読み取り、即応するカリキュラム編成とした実践教育を行うことを旨とする。業界の今を的確に捉え、求められる知識、技術の育成に力点を置き、学ぶことで社会と直結した教育機関のあるべき姿を具体化する。教育効果を客観的視点で評価し、改善の方法を探る為の評議の場を設ける。本方針を共有できる企業と

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長と学務会議の間の位置付けとし、まず教育課程編成委員会で挙げられた意見を学務会議にて議論、それを経て校長を経由した上で責任者会議に持ち込まれ、決議される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年10月15日現在

名前	所属	任期	種別
嶋 高宏	一般社団法人総合デザイナー協会 理事長	平成31年4月1日 ～令和4年3月31日(4年)	①
春本 有加	Cherubim Create (ケルビムクリエイト) ファッションデザイン学科 委員	平成31年4月1日 ～令和4年3月31日(4年)	③
山本 眞弘	株式会社夢現社 代表取締役 アニメーション学科 委員	平成31年4月1日 ～令和6年3月31日(7年)	③
森本 博士	株式会社創英 イラストレーション学科 委員	平成29年4月1日 ～令和3年3月31日(4年)	③
朝山 竜一	株式会社ホットアート大阪 グラフィックデザイン学科 委員	令和2年4月1日 ～令和6年3月31日(4年)	③
萩森 誠	株式会社マックガーデン 関西支部 マンガ学科 委員	令和2年4月1日 ～令和6年3月31日(4年)	③
西岡 英人	イサナ創庵 主宰 インテリアデザイン学科 委員	令和2年4月1日 ～令和6年3月31日(4年)	③
長尾 大樹	大阪デザイナー専門学校 校長		
打越 友信	大阪デザイナー専門学校 教員		
福永 紀昭	大阪デザイナー専門学校 教員		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 平成31年4月1日(月) 14:00～15:30

第2回 令和2年1月26日(日) 12:30～14:00

第3回 令和2年3月21日(土) 14:00～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会企業等委員である春本氏より、実務において基礎力向上は最優先課題であるとの意見を頂いており、実務においてもまず基礎であるパターンメイキングや縫製の仕組みが理解できないと提案ができないという課題を受け、基礎カリキュラムを踏襲した上で産学協同課題の取り組みをカリキュラムへの反映を行っている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 「ファッション業界で即戦力で活躍できる人材の育成」を方針と掲げ、縫製やパターンメイキングといった基礎技術の習得と、縫製現場において必須である工業用パターン技術の履修、実際の企業への産学協同課題としての作品制作及び企画立案を通じて、現場の業務フローやプレゼンテーション手法を習熟させ、確かな技術を持った人材を育成する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

連携企業のIN-SISTと取り交わしている協定書の第2条の(1)～(5)に掲げる通り、職業実践専門課程のカリキュラム協議と作成、講義、研修、実習を実施。その教材類の作成を手掛けて頂き、進級や卒業審査等に関する成績判定においても参加を頂いている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
服飾製図技法	衣類を制作する上で欠かせない設計図であるパターンメイキング能力と立体裁断技術の習得	IN-SIST

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

研修は、当校の教職員研修規定第2条の定めとおり、教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「造形と衣裳の関わり」(連携企業等: (有)自由廊 浮田剛士 氏)
 期 間: 令和元年8月25日(日) 対 象: ファッションデザイン学科・特殊メイク学科教員・在校生希望者
 内 容: TV・映画分野における立体造形と衣装制作の関わり方、技術説明

研修名: 「業界・仕事のプロセスと技術共有」(連携企業等: DOUZE DESIGN ミナミノ アキヒロ氏)
 期 間: 令和元年10月27日(日) 対 象: ファッションデザイン学科教員・在校生希望者
 内 容: ファッションデザイン業界と仕事のプロセスについての理解を深める。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「仕事の報酬」
 (全国の経営者やリーダーが集まり「スーパージェネラリスト」への成長を目指す「田坂塾」で活動する田坂広志氏)
 期 間: 令和2年1月16日(木) 対 象: 全教員
 内 容: 学歴社会が終わり人材価値が激変する時代いかにしてこれから活躍する人材を育てるか。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「造形・衣裳制作の技術(仮)」(連携企業等: 浮田剛士 氏)
 期間: 令和2年10月25日(日) 対 象: ファッションデザイン学科・特殊メイク学科教員・在校生希望者(オンライン)
 内容: 造形・衣裳分野の新たな技術説明と製作レクチャー

研修名: 「これからのアパレル産業について(仮)」(連携企業等: DOUZE DESIGN ミナミノ アキヒロ氏)
 期間: 令和2年12月予定 対 象: ファッションデザイン学科教員・在校生希望者(オンライン)
 内容: コロナ下の影響を受けた今後のアパレル産業の展開とデザインの可能性についての講義

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「著作権セミナー デザイン系専門学生のための知的財産入門」
 (山口大学 大学研究推進機構 知的財産センター准教授 陣内秀樹氏)
 期 間: 令和2年12月10日(木) 対 象: 全教員
 内 容: 知恵的財産権の全体像の概要と、著作権に対する理解と判断の基準等をケーススタディで学ぶ。

研修名: 「仕事の報酬(仮)」
 (全国の経営者やリーダーが集まり「スーパージェネラリスト」への成長を目指す「田坂塾」で活動する田坂広志氏)
 期間: 令和3年1月予定 対 象: 全教員

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校自己評価や日常の学校教育に対する評価・意見内容を教育活動面と学校運営面に分別し、学務・広報・事務の各部門で運営方針に照らし、協議・検討を行う。その結果、授業内容に取り入れたり、改善・修正を要する場合は、部門より責任者会議の具体的な稟議案件として上申し、最終的な判断をすることで、第三者評価の効果的な活用を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学校の理念、学校の目的・特色の明確化と育成する人材像
(2) 学校運営	運営方針に即した事業計画の策定、運営組織の意思決定機能の円滑化と適正な運用。
(3) 教育活動	職業教育に適するカリキュラムの策定に際し、その学科の関係する業界との密な連携とそれに対応する教職員の能力開発・研修の実
(4) 学修成果	学生の学校継続率、就職率の向上
(5) 学生支援	在学生への経済面・健康面・生活面全般への支援体制、並びに卒業生支援の整備
(6) 教育環境	授業運営上の付属施設、設備、実習施設の環境及び防災体制の確
(7) 学生の受入れ募集	学生募集の適正さと活動上における教育成果の正確な伝達の確認
(8) 財務	予算・収支計画の有効性と、財務面の適正
(9) 法令等の遵守	法令の遵守、個人情報等の取扱い確認
(10) 社会貢献・地域貢献	—
(11) 国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

基準1～9の項目において学校関係者評価委員会から概ね了承を得ている中、業界で活躍できる人材の育成強化についての課題点を教育活動、教育成果、教育環境の視点から共有。その点を踏まえ、今後の強化点としてより企業と連携した課題を織り込んだカリキュラムの整備とそれに応じた学外授業の計画実施を図ることが重要であるとし、具体的には業界内企業とのネットワークをより強固なものとする求人活動の徹底と、インターンシップを通じた実践的な産学連携、企業招へいの上で職業訓練の一環として実践的なプレゼン形式のカリキュラムを構築する。ポートフォリオのレビューや学外へ向けた学修成果の発表の場を設け、修学評価に繋げる活動を行う。またコロナウィルスの影響も踏まえた健康面のケアと方針の構築、カウンセラーによる精神疾患学生へのケアの体制も構築する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年10月15日現在

名前	所属	任期	種別
高畑 彰	高畑デザイン事務所	平成31年4月1日～ 令和4年3月31日(4年)	企業等委員
渡邊 政人	株式会社アイドマフォト	平成29年4月1日～ 令和3年3月31日(4年)	企業等委員
西森幸司	西森幸司建築設計事務所	平成29年4月1日～ 令和3年3月31日(4年)	企業等委員
萩森 誠	株式会社マッグガーデン 関西事業部	平成29年4月1日～ 令和3年3月31日(4年)	企業等委員
山本 眞弘	株式会社 夢現社	平成29年4月1日～ 令和3年3月31日(4年)	企業等委員
森本 博士	株式会社 創英	平成29年4月1日～ 令和3年3月31日(4年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL: <http://www.odc.ac.jp>

公表時期: 令和2年10月23日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校全般の状況を広く学校関係者、その他に情報提供をする事により、生徒・保護者・業界関係者の学校に対する理解、信頼を深め、社会に対する説明責任を果たす。また、企業、関係団体等とは情報を基にした連携、協力する事によって、カリキュラム策定の寄与を為し、実践教育の質を高めることを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	建学の精神、所在地、校長名、沿革、歴史
(2) 各学科等の教育	設置学科の入学定員・収容定員・在学学生数、カリキュラム、進級・卒業要件、資格・検定
(3) 教職員	教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動
(6) 学生の生活支援	健康診断、カウンセリング体制
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、経済的支援活動
(8) 学校の財務	資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表
(9) 学校評価	自己評価表
(10) 国際連携の状況	—
(11) その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

☞(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL: <http://www.odc.ac.jp>

授業科目等の概要

(デザイン専門課程ファッションデザイン学科)													
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	
	○			色彩学	色の基礎知識の習得。色彩調和の理解と、リデザインへの応用を行う。	1前	34	2	○		○	○	
	○			造形理論	デザインアイデアの可視化プロセスの理解。ビジュアルイメージを確定させ、作品として立体表現化する。	1後	34	2	○		○	○	
	○			服飾史	古代～近現代までの衣服の成り立ちと、時代背景の理解。当時の衣服を現代に応用するデザイン力を身につける。	1後	34	2	○		○	○	
	○			デザインメディア	販売知識と小売業態の理解。マーケティングの基礎知識を習得する。	1前	34	2	○		○	○	
	○			ファッション計画	業界研究と企業訪問等を行い、アパレル業界の基礎と職種、業種の理解する。	1通	136	4	○		○	○	
	○			デッサンⅠ	基本プロポーションの理解とポーキングの描き分けを身につける。	1前	68	4		○	○		○
	○			デッサンⅡ	テーマに沿った着装デザインイラストの制作と着色技法の習得。	1後	68	4		○	○		○
	○			服飾製図技法	服飾製図に必要な原型や人体の構造、採寸箇所計算の理解とアイテム毎の製図の応用。	1通	136	4		○	○		○
	○			服飾素材	新しい素材の表現と開発を行う。テクスチャーの衣服雑貨への応用を理解する。	1前	68	4		○	○		○
	○			ファッションデザイン技法基礎	オリジナルアイテムのデザイン制作と縫製の応用。制作プロセスを繰り返す事で縫製技法のスキルアップを図る。	1通	136	4		○	○		○
	○			立体裁断実習	実物サイズのボディを使用した立体裁断(ドレーピング技法)の習得と理解。	1後	68	4		○	○		○
	○			裁断縫製技術	布地の特性理解と裁断等の下準備工程の理解。縫製技術を身につける。	1通	136	4		○	○		○
	○			基礎	デジタルツールの基礎を習得する。ポートフォリオ等の自己作品をPRするためのツール作成を行う。	1通	68	2		○	○		○
	○			表現心理学	店舗ディスプレイを通じ、アパレルにおける視覚的表現と人に与える印象、効果を学ぶ。	2通	60	2		○	○		○
	○			ファッション計画	業界研究と企業訪問等を行い、アパレル業界の基礎と職種、業種の理解する。	2通	60	2	○		○	○	
	○			近代服飾界研究	近代服飾アイテムの研究とし、2DCADを使用したアイテムパターンの分析、展開を学ぶ。	2通	120	4		○	○		○
	○			描写技法演習	イメージコラージュ、ドローイング等の描写技法を学び、デザインイラストを視覚的に表現する。	2通	120	4		○	○		○
	○			服飾デザイン技法	服飾技法であるハンドステッチ・ビーズワーク・刺繍などの他、帽子・靴などの制作技法を習得する。	2通	120	4		○	○		○
	○			パターンメイク技法	テーラードジャケット、コート、裏地付きアイテム等の高度なパターンメイク技法を習得する。	2通	120	4		○	○		○
	○			縫製演習	テーラードジャケット、コート、裏地付きアイテム等の高度な縫製技術を習得する。	2通	120	4		○	○		○
	○			ファッションデザインⅠ	各種コンテストに向けたデザインイラスト制作を制作し自己表現力を身につける。	2通	120	4		○	○		○
	○			ファッションデザインⅡ	ドレス、制服、舞台等の衣装制作分野のデザインイラスト技術と表現力を身につける。	2通	120	4		○	○		○
	○			基礎	デジタルツールを用いたデザイン企画とVMDの基礎知識をとデザイン技術を習得する。	2通	60	2		○	○		○
合計					23 科目			2,040 単位時間(単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等
し、且つ卒業制作を受理されること。尚、2年次は選択必修科目2科目のうち、1	1学年の学期区分 2 期 1学期の授業期間 17 週

- (留意事項)
- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
 - 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。